

# 甲斐市立竜王小学校 自己評価書

令和2年度2月3日(月)作成

校長 「 小尾 一彦 」 記述者 職名 主幹教諭 「 小田切真喜 」

学校教育目標 「明るく元気な竜の子」の育成

- ・た・・・助け合う子ども・・・(情)
- ・つ・・・強い心を持った子ども・・・(意)
- ・の・・・伸び行く体の子ども・・・(体)
- ・こ・・・根気強く学ぶ子ども・・・(知)

学校経営方針

- (1) 教職員の英知と和を結集し、学校教育目標の具現化に努める。
- (2) 児童一人一人の自己実現を目指す学校づくりを推進する。
- (3) 研修活動を活性化し、自ら学ぶ授業づくりを推進する。
- (4) 特色ある学校づくりに努める。
- (5) 安全・安心な学校づくりに努める。



# 1 全体評価

本校の学校評価は、平成 28 年度より年 1 回の実施となり、11 月に実施している。また、学校評価は次の全 6 観点で行っている。

- I 学校教育目標・学校経営について
- II 学校運営について
- III 学習指導について
- IV 生徒指導について
- V 地域との連携について
- VI 学校の特色に関して

また、教職員自己評価及び保護者用アンケートのそれぞれの設問は、右のような 5 段階評価で、小学生用アンケートについては 4 段階評価で行っている。教員自己評価において、「E：わからない」については担当外の場合のみつけている。また、年 1 回の実施のため、昨年度の結果を踏まえながら検討している。

## 5 段階評価〈教職員・保護者〉

- A：とてもそう思う（青）
- B：そう思う（オレンジ）
- C：ややそう思う（黄）
- D：そう思わない（緑）
- E：わからない（紫）

## 4 段階評価〈小学生〉

- A：とてもそう思う（青）
- B：そう思う（オレンジ）
- C：ややそう思う（黄）
- D：そう思わない（緑）

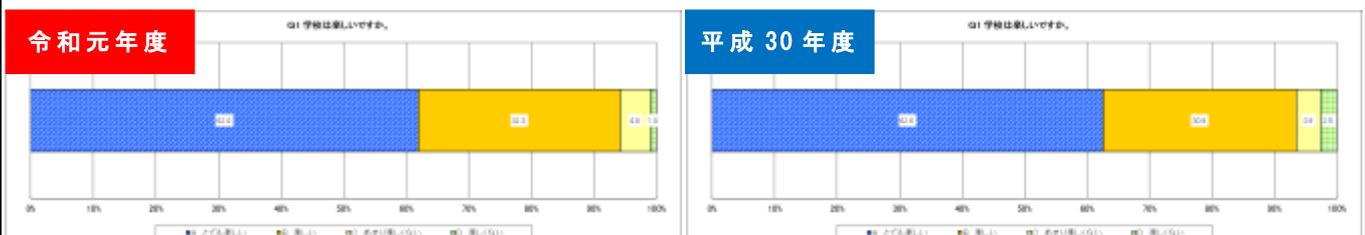
### （1）教職員自己評価について

「すべては子供の幸せのために」を合言葉に、校長を中心に学校教育目標の具現化を目指し、「チーム学校（チームドラゴン 2019）」として協働し、研鑽を積んできている。学習規律「明るく元気な竜の子 15 箇条」を基盤とした授業改善や生活指導が、教職員が入れ替わっても安定して実践できるように、共通理解を図るための研修を行っている。そして組織的な指導を行うことで、子供たちの落ち着いた学校生活につなげている。

今年度の教職員自己評価も、ほとんどの設問で「A+B の肯定的評価」が 90% 以上となり、教職員が子供たちのために誠実に職務に専念している姿勢が表れている。

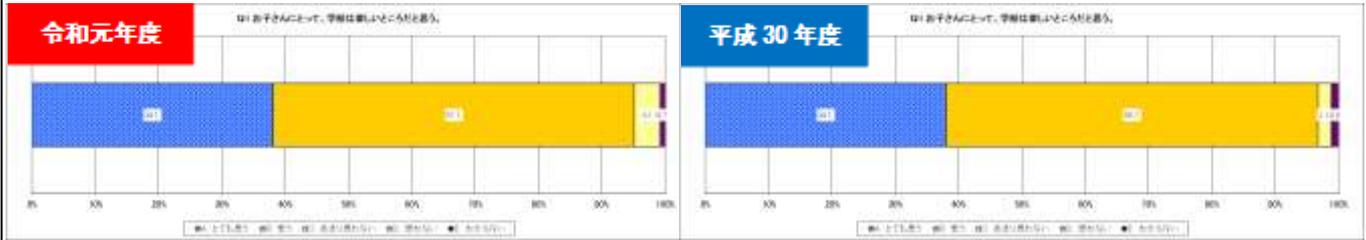
### （2）小学生アンケートについて

「学校は楽しいですか。」の肯定意見が約 94% となり、多くの児童が学校生活に満足する状況である。一方、否定意見の児童が昨年同様約 6%（24 名）いる。日常的に子供たちとかかわる中での見取りや Q-U 調査等により、気になる児童についての共通理解を教職員間でとりながら、継続的に対応している。今後もきめ細かな指導を行っていくことが必要である。



### (3) 保護者アンケートについて

「お子さんにとって学校は楽しいところだと思う」の肯定意見は約 95% だった。昨年度までと同様、学校に対して好意的な評価であることがわかる。



## 2 観点ごとの評価結果（達成状況・改善策）

### I 学校教育目標・学校経営について

#### (1) 達成状況について

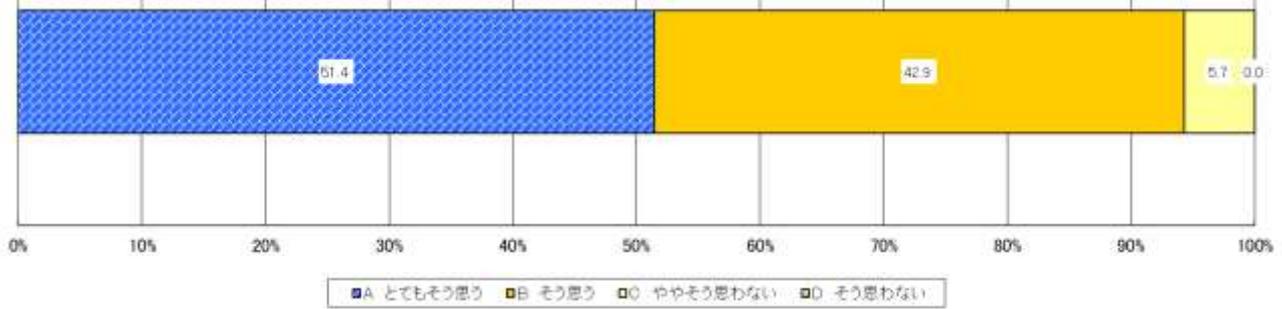
番号	I 学校教育目標・学校経営について	令和元年度				平成30年度			
		A	B	C	D	A	B	C	D
		とても満足	満足	やや満足しない	満足しない	とても満足	満足	やや満足しない	満足しない
質問内容		回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%
1	あなたの学校は、学校教育目標が、学校経営方針を踏まえたものになっている。	80.0	20.0	0.0	0.0	86.5	13.5	0.0	0.0
2	あなたは、学校経営方針に基づき、教育活動を行っている。	74.3	25.7	0.0	0.0	70.3	29.7	0.0	0.0
3	あなたの学校は、学年の教育活動計画が、教育目標や重点目標を踏まえたものになっている。	77.1	22.9	0.0	0.0	83.8	16.2	0.0	0.0
4	あなたは、学校の教育活動計画に基づき、実態に即した教育実践を行っている。	71.4	28.6	0.0	0.0	70.3	29.7	0.0	0.0
5	あなたの学校は、P→D→C→Aサイクルで、教育活動が取り組まれている。	65.7	34.3	0.0	0.0	75.7	24.3	0.0	0.0
6	あなたは、P→D→C→Aサイクルを生かした教育活動を行っている。	51.4	42.9	5.7	0.0	56.8	43.2	0.0	0.0
7	あなたの学校は、職場の福利厚生や健康管理について配慮がなされている。	54.3	42.9	2.9	0.0	54.1	45.9	0.0	0.0
8	あなたの学校は、特別支援教育の体制が整い、機能的に行われている。	77.1	22.9	0.0	0.0	86.5	13.5	0.0	0.0

学校教育目標や学校経営について、ほぼ全員の教職員が肯定的な意見であり、高い数値が見られた。学校教育目標をもとに学校経営がなされ、一定の成果を得ているという実感があるものと考えられる。

一方、学校全体や一人一人の教員の PDCA サイクルによる教育活動の改善、職場の福利厚生や健康管理についての配慮において、比較的低い数値が見られる。特に番号6の設問では、「C：やや満足しない」の回答率が 5.7%（2名）、番号7の設問では、2.9%（1名）となっている。

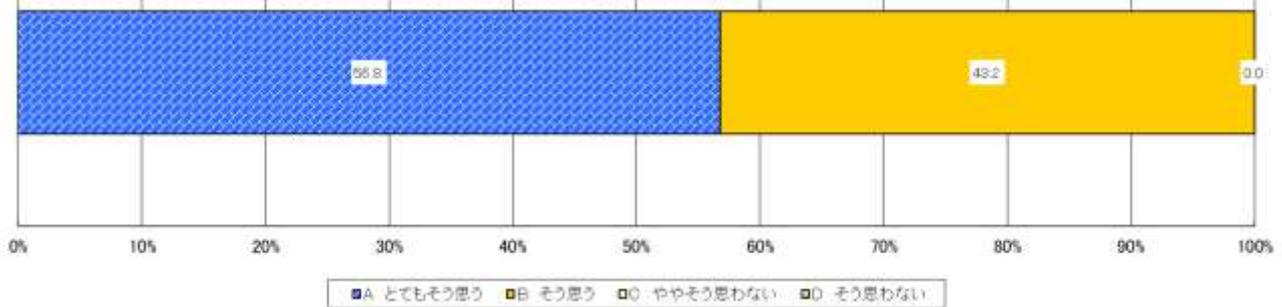
I-6 あなたは、P→D→C→Aサイクルを生かした教育活動を行っている。

令和元年度



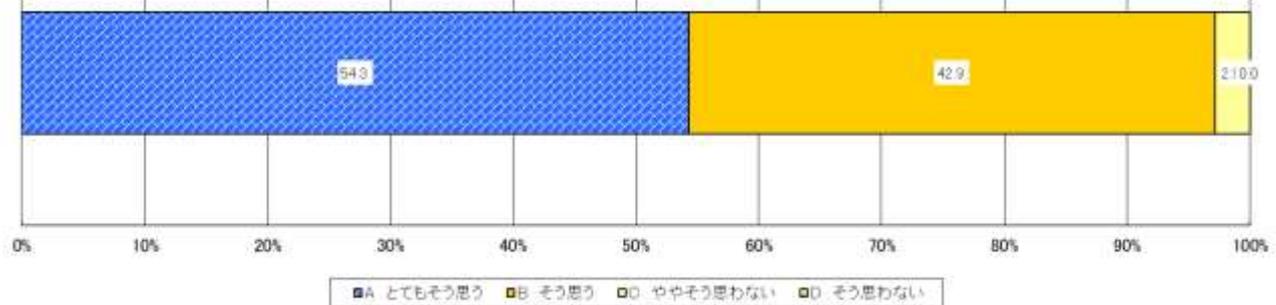
I-6 あなたは、P→D→C→Aサイクルを生かした教育活動を行っている。

平成30年度



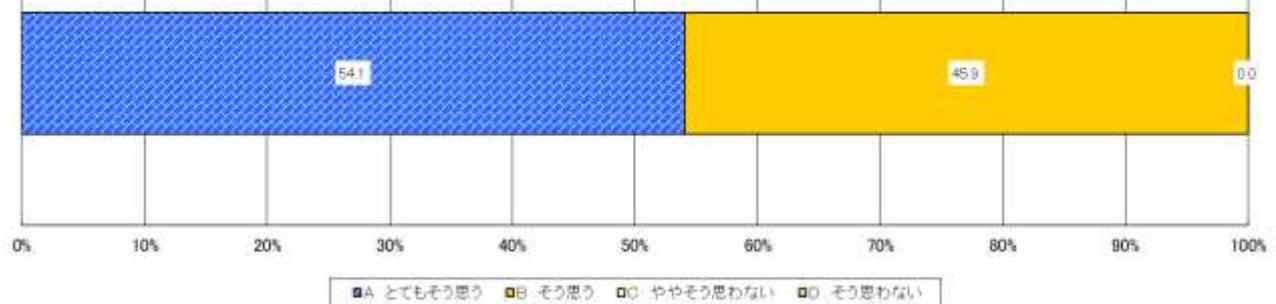
I-7 あなたの学校は、職場の福利厚生や健康管理について配慮がなされている。

令和元年度



I-7 あなたの学校は、職場の福利厚生や健康管理について配慮がなされている。

平成30年度



## (2) 改善策について

- ① 来年度より全面実施となる新学習指導要領で求められる，カリキュラム・マネジメントについての全教職員への理解を，研修などを通して深め，PDCA を活用しながら効果的・効率的な学校経営や教育活動を目指した改善を図っていく。
- ② 引き続き，管理職を中心とした多忙化解消への取組を行う。責任の重い仕事については複数人で取り組んだり，適材適所に人材を配置したりするなど，より組織的に取り組んでいくようにする。また，事務処理等についてはさらに ICT 機器活用を進めるなどし，一人一人の教職員の負担を軽減していくようにしていく。

## II 学校運営について

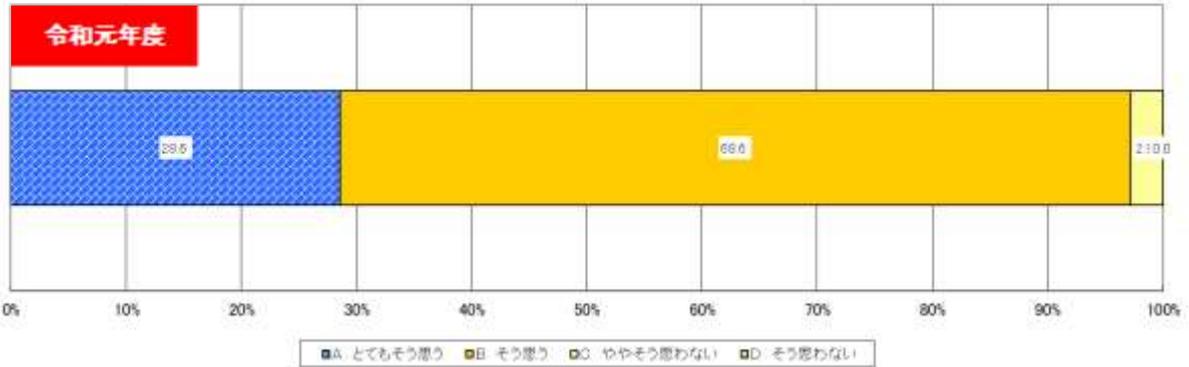
### (1) 達成状況について

番号	II 学校運営について 質問内容	令和元年度				平成30年度			
		A	B	C	D	A	B	C	D
		とてもそう思う 回答率%	そう思う 回答率%	ややそう思わない 回答率%	そう思わない 回答率%	とてもそう思う 回答率%	そう思う 回答率%	ややそう思わない 回答率%	そう思わない 回答率%
1	あなたは、校舎内外の施設設備を定期的に点検し、結果を的確に処理・報告（整備・保全）している。	60.0	37.1	2.9	0.0	72.2	27.8	0.0	0.0
2	あなたは、危機管理（防犯、防災、事件、事故等）マニュアルを理解している。	28.6	68.6	2.9	0.0	35.1	64.9	0.0	0.0
3	あなたは、個人情報保護・情報セキュリティの観点から、諸表簿や文書、記憶媒体を適切に管理・活用している。	54.3	42.9	2.9	0.0	62.2	37.8	0.0	0.0
4	あなたの校務分掌は、学校運営上、機能している。	51.4	45.7	2.9	0.0	52.8	47.2	0.0	0.0
5	あなたは、職員会議に、積極的に関わっている。	51.4	42.9	5.7	0.0	52.8	47.2	0.0	0.0
6	あなたは、他の教職員と相互理解や信頼関係を深めて、教育活動にあたっている。	80.0	20.0	0.0	0.0	78.4	18.9	2.7	0.0
7	あなたは、職務上「報告、連絡、相談、確認」を行っている。	68.6	31.4	0.0	0.0	91.9	5.4	2.7	0.0
8	あなたは、校内研究（研修）に主体的に関わっている。	48.6	48.6	2.9	0.0	33.3	61.1	5.6	0.0
9	あなたは、教育活動の円滑な実施のために、児童や家庭に対して目標の徹底を図っている。	42.9	54.3	2.9	0.0	42.4	57.6	0.0	0.0

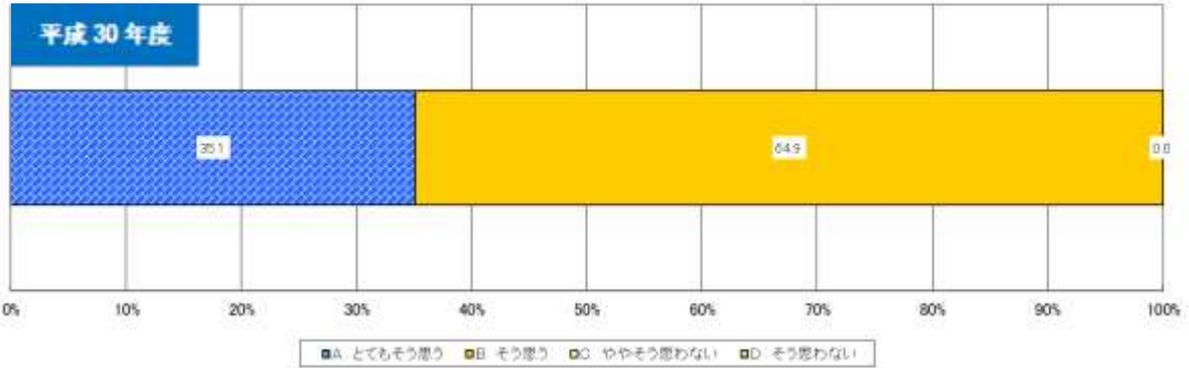
全体的におおむね良好で，多くの教職員が主体的に学校運営に関わっている学校組織であるといえる。特に番号6については非常に良い数値を示しており，毎日の学校運営が，まさに「チームドラゴン2019」として，他の教職員とコミュニケーションをとりながら協働して行われていることがうかがえる。

一方，設問2については，昨年同様低い値を示しており，多くの教職員が「危機管理マニュアル」について十分に理解していると自信をもって言えないでいる現状がある。

Ⅱ-2 あなたは、危機管理(防犯、防災、事件、事故等)マニュアルを理解している。

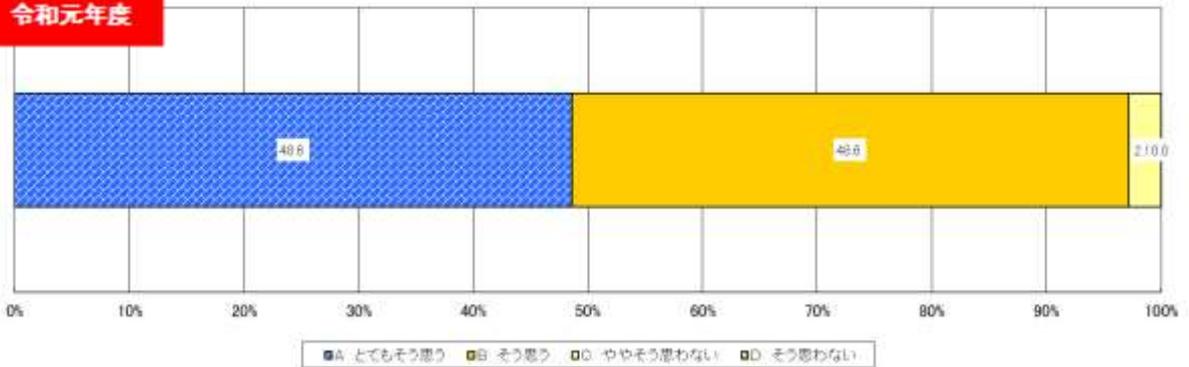


Ⅱ-2 あなたは、危機管理(防犯、防災、事件、事故等)マニュアルを理解している。

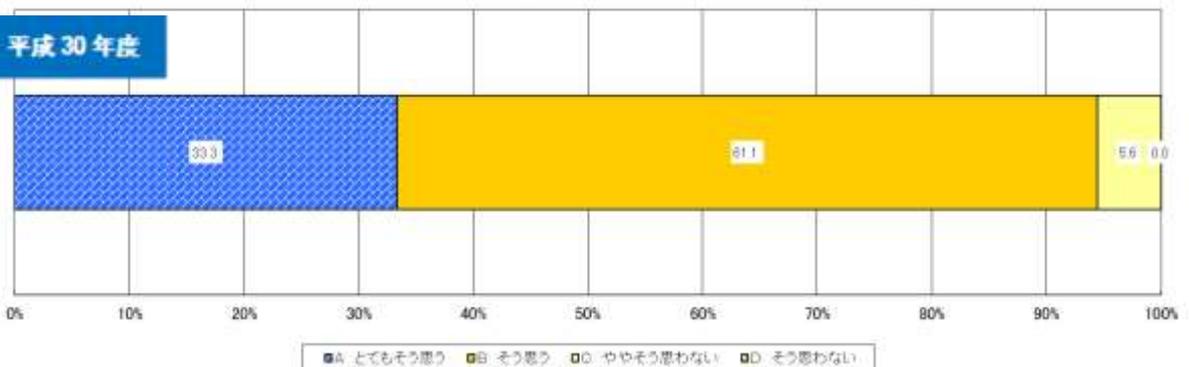


また、全体的に教職員一人一人が、自分の職務の実施状況について向上心を持ちながら振り返り、評価しているため、相対的にみて厳しい自己評価になっているものと考えられる。そのような中、校内研究(研修)についての値は向上している。教職員一人一人がそれぞれの課題を持って主体的に取り組んだ様子が見えてくる。

Ⅱ-8 あなたは、校内研究(研修)に主体的に関わっている。



Ⅱ-8 あなたは、校内研究(研修)に主体的に関わっている。



## (2) 改善策について

- ① 1月28日(火)に行われた公開授業研究会では、本校の教職員一人一人が主体的に研究に関わりながら取り組み、素晴らしい成果を示すことができた。このような成果を教職員一人一人に再度フィードバックし、今後の教育活動を行っていくうえでの自信にしていけるようにしていきたい。
- ② 「危機管理マニュアル」のさらなる見直しと充実を図るとともに、日々の教育活動において「危機管理マニュアル」の活用を行っていく。そして、教職員に対する「危機管理マニュアル」の周知や訓練の実施を的確に行う。さらに、防災、防犯教育を充実させ、子供たちの危機管理に向けた意識の醸成を行っていく。
- ③ 校内初任者研修や若手育成グローアップ事業との連携、本校の実態や課題に沿った校内研究等を組織的・計画的に継続することで、第1ステージの教職員をはじめ、すべてのステージの教職員の資質・能力の向上を図っていく。

## Ⅲ 学習指導について

### (1) 達成状況について

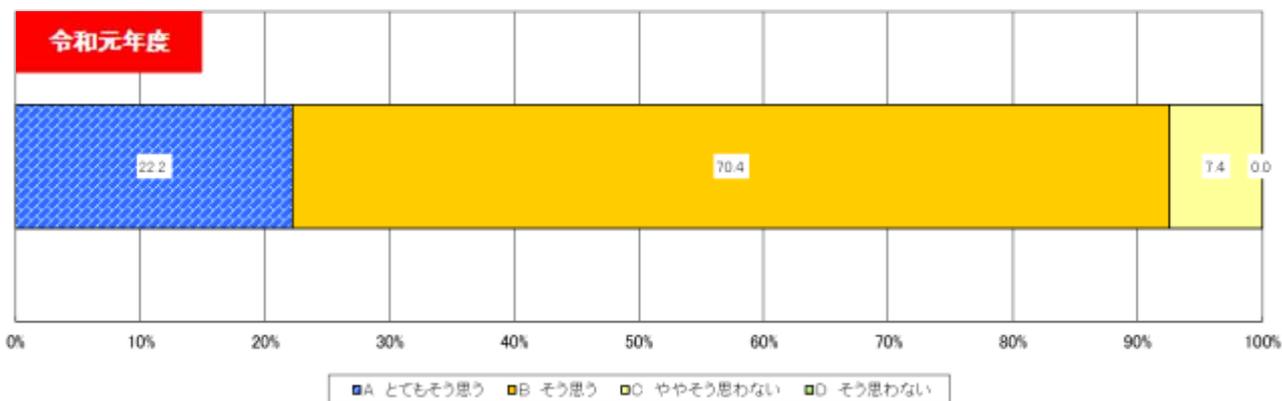
番号	Ⅲ 学習指導について 質問内容	令和元年度				平成30年度			
		A	B	C	D	A	B	C	D
		とてもそう思う 回答率%	そう思う 回答率%	ややそう思わない 回答率%	そう思わない 回答率%	とてもそう思う 回答率%	そう思う 回答率%	ややそう思わない 回答率%	そう思わない 回答率%
1	あなたは、民主的で規律ある学級・学年・学校集団づくりを行っている。	50.0	50.0	0.0	0.0	75.0	25.0	0.0	0.0
2	あなたは、児童生徒の学びの意欲を喚起する授業を行っている。	44.4	51.9	3.7	0.0	59.3	40.7	0.0	0.0
3	あなたは、基礎・基本の定着を図る授業を行っている。	48.1	51.9	0.0	0.0	70.4	29.6	0.0	0.0
4	あなたは、偏りに配慮した授業を行っている。	48.1	48.1	3.7	0.0	59.3	40.7	0.0	0.0
5	あなたは、評価基準と評価方法を明確にした授業を行っている。	22.2	70.4	7.4	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0
6	あなたは、教材教具や備品等を活用した授業を行っている。	40.7	55.6	3.7	0.0	65.4	34.6	0.0	0.0
7	あなたは、質問や発言が出てくる授業を行っている。	33.3	63.0	3.7	0.0	46.2	53.8	0.0	0.0
8	あなたは、宿題や家庭学習に対する指導を行っている。	37.0	51.9	11.1	0.0	56.0	40.0	0.0	4.0
9	あなたは、思考力・判断力・表現力を伸ばすような問題解決型授業に取り組んでいる。	33.3	63.0	3.7	0.0	52.0	48.0	0.0	0.0
10	あなたは、ALTとの外国語(英語)学習を実施する中で、国際理解を高める指導を行っている。	28.0	60.0	8.0	4.0	50.0	45.0	5.0	0.0

学級，学年，学校集団作りについてと基礎・基本の定着を図る授業の実施については、よい数値が表れている。本校が取り組む「学習規律」や「ほめ言葉のシャワー」をはじめとする集団づくりの方策，子供たち一人一人の基礎・基本の学力の向上についての実践などを通して，教職員一人一人が意識しながら指導にあたってきた結果であろう。

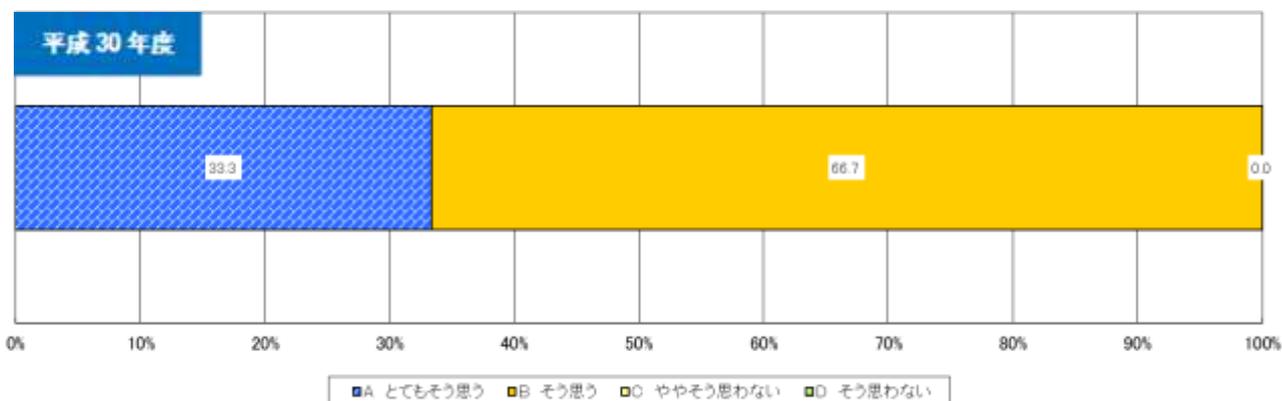
その他の設問についても，おおむね良い結果が得られているが，昨年度と比べ何名かの教職員が自信を持って取り組めていない様子が見取れる。とくに設問5，設問8，設問10において，「C:ややそう思わない」「D:そう思わない」と評価しているものが比較的多くなっている。評価規準と評価方法の明確化については，新指導要領の全面实施を迎え，教育内容も改訂が行われることもあり，来年度以降の重要課題となる。また，国際理解教育への取組については，各教職員が基礎・基本の徹底を重視しているため，なかなか十分に時間をかけることができていない現状が考えられる。

全体としての数値も下がっている傾向にある。若い教員が増えていく中，学年間の連絡や調整を行っていく学年主任等も若返っている現状であり，それぞれの教職員のステージに応じた資質・能力の向上が求められる。

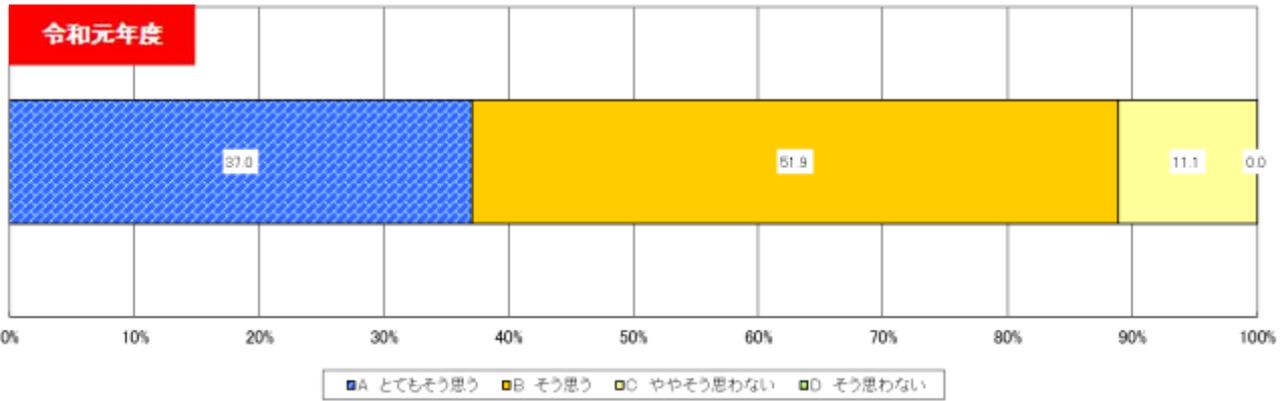
Ⅲ-5 あなたは、評価規準と評価方法を明確にした授業を行っている。



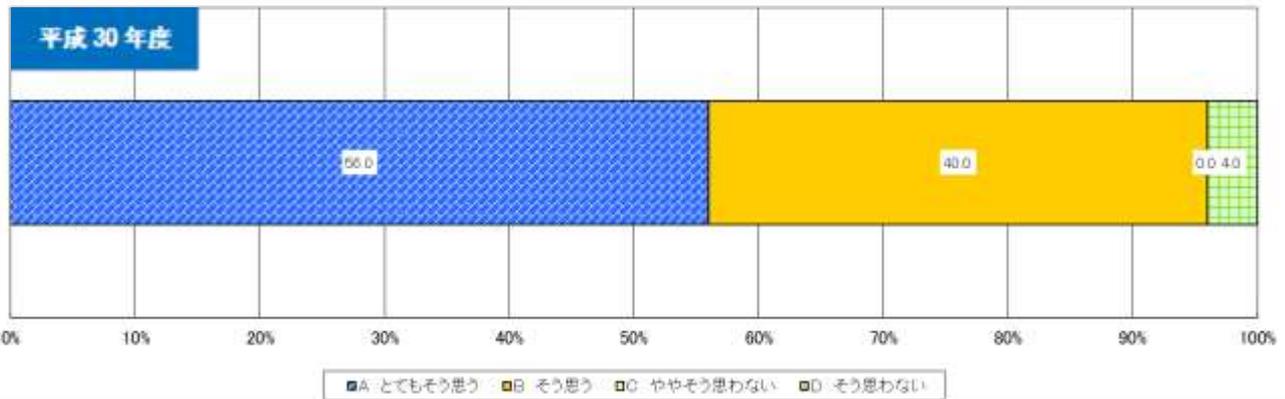
Ⅲ-5 あなたは、評価規準と評価方法を明確にした授業を行っている。



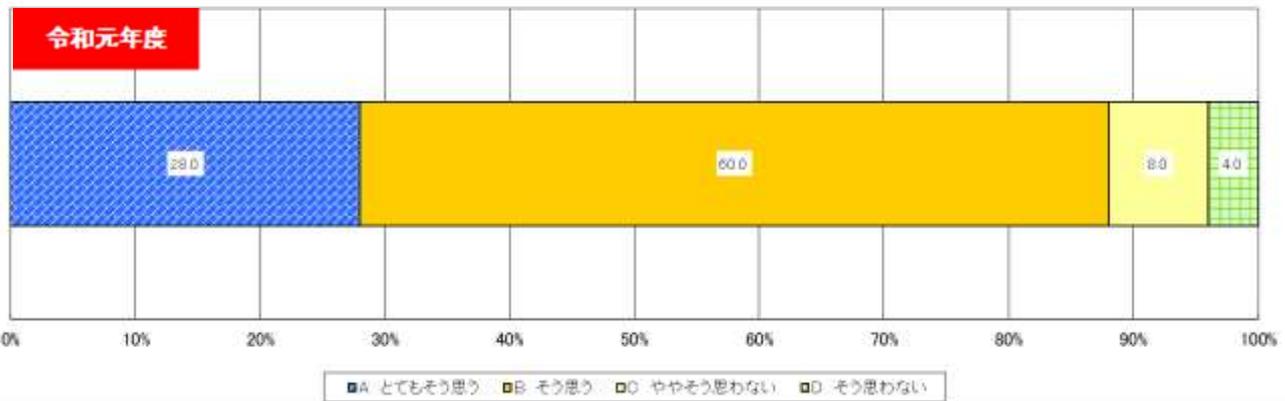
Ⅲ-8 あなたは、宿題や家庭学習に対する指導を行っている。



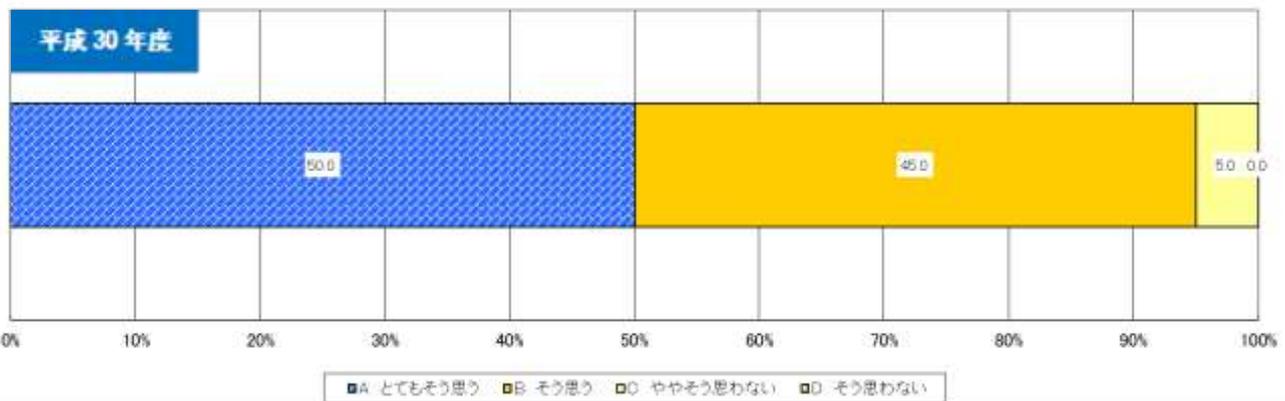
Ⅲ-8 あなたは、宿題や家庭学習に対する指導を行っている。



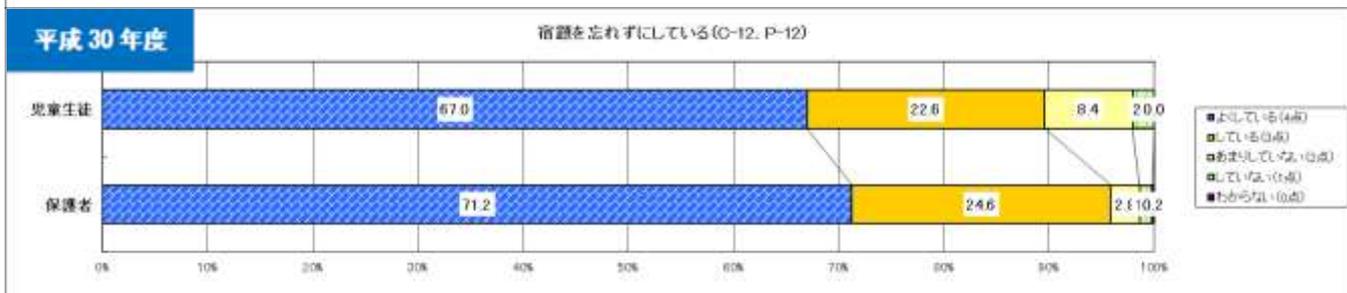
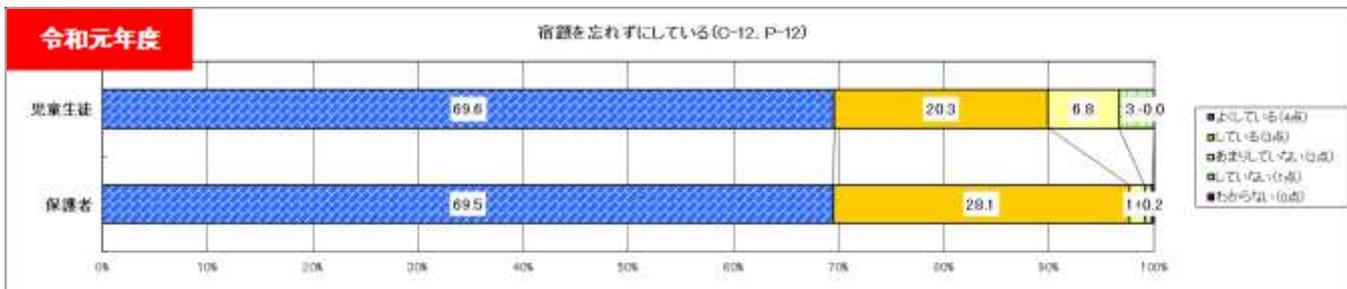
Ⅲ-10 あなたは、ALTとの外国語(英語)学習を実施する中で、国際理解を高める指導を行っている。



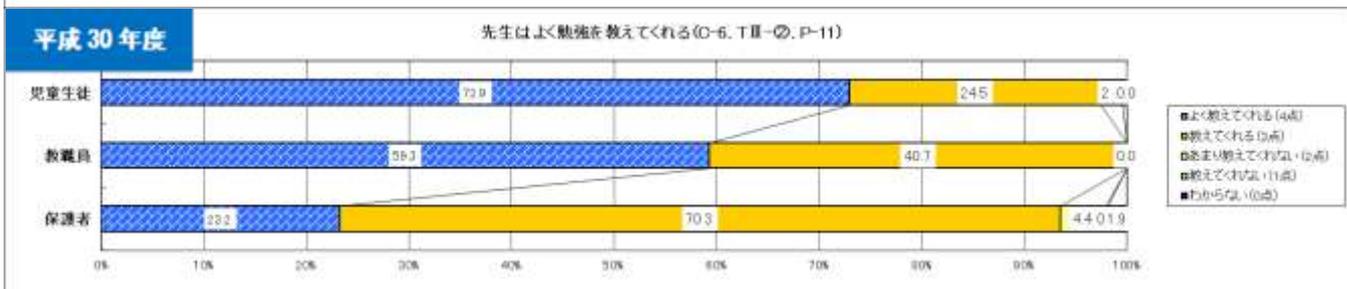
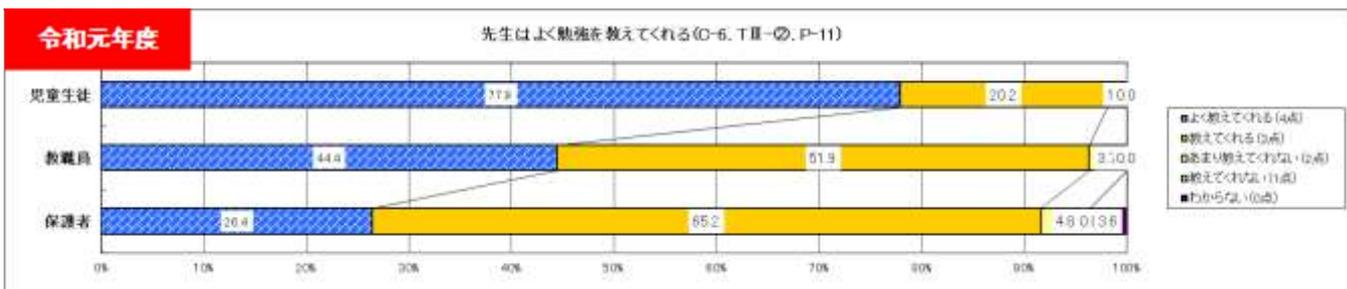
Ⅲ-10 あなたはALTとの外国語(英語)学習を実施する中で、国際理解を高める指導を行っている。



一方、甲斐市では、家庭学習の目安として「学年×10分+10分」としている。小学生アンケート、保護者アンケートを見ると、「宿題を忘れずにしている」という設問において、約90%の子供たち、約95%の保護者が肯定的な回答をしている。これは昨年度とほぼ同様の結果であり、家庭での学習がほぼ定着している様子が見えてくる。しかしながら約3.5%の子供たちが「D：していない」と回答しており、家庭学習への取組のさらなる指導が必要である。



さらに授業についてのわかりやすさを問う設問でも、約98%の子供たちが「先生はよく勉強を教えてくれる」を回答しており、昨年同様に学校における毎日の授業が充実しており、子供たちが満足している様子が見受けられる。また、保護者アンケートも、昨年度と同様に高い評価を得ていることを示している。



## (2) 改善策

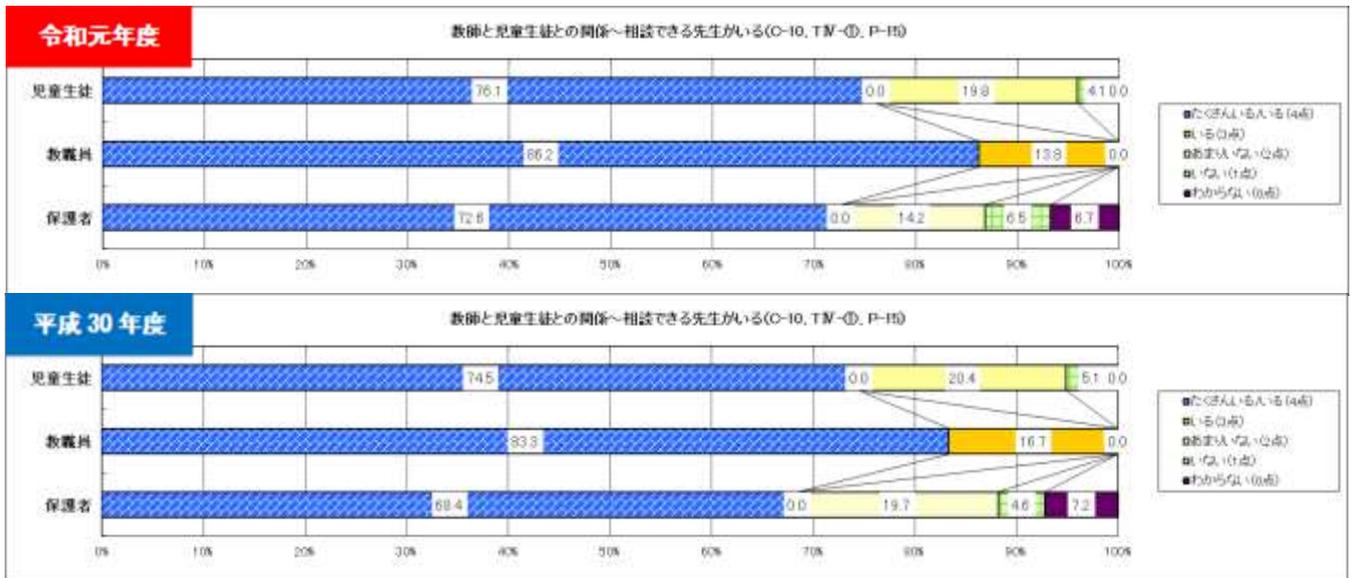
- ① 教職員全員が自信をもって教育活動にあたるためには、組織的な取組が必要である。教職員がそれぞれのステージに合った目標設定を行う必要がある。そのうえで校内研究会や一人一実践、OJT を生かしながら教職員一人一人の資質・能力の向上を図っていきたい。
- ② 学年主任を中心に各教科の学習評価を再確認し、評価規準や評価方法を明確にして授業を行うようにしていく。学習の「めあて」がその授業の評価規準をもあらわしている。授業のはじめに「めあて」を子供たちにしっかりと把握させ、さらに学習の終わりにその「めあて」を達成できたかどうかを評価していくような授業を構築していく。
- ③ 年度のはじめに各家庭に配布している「家庭学習の手引き」や県が推し進めている「学びの甲斐善八か条」などを活用し、より家庭との連携を深めていく。また、学級懇談会や学年懇談会、個別懇談、学年だより等を通して各家庭への啓発に努めていく。

## IV 生徒指導について

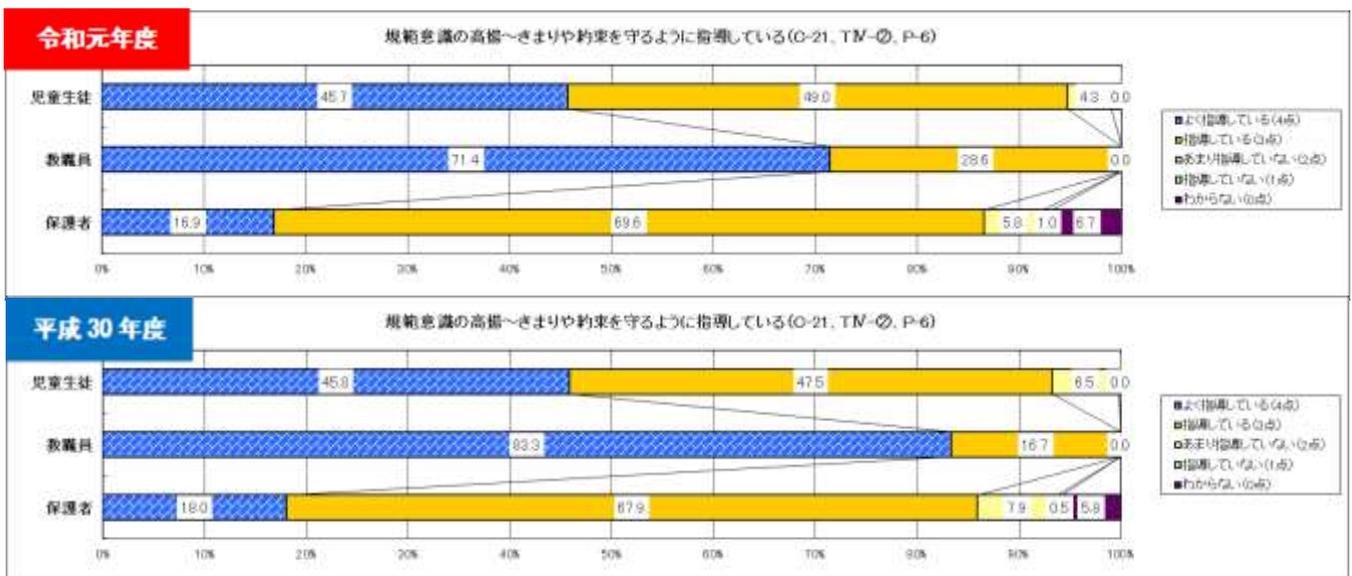
### (1) 達成状況

番号	IV 生徒指導について 質問内容	令和元年度				平成30年度			
		A	B	C	D	A	B	C	D
		とても思う 回答率%	そう思う 回答率%	ややそう思わない 回答率%	そう思わない 回答率%	とても思う 回答率%	そう思う 回答率%	ややそう思わない 回答率%	そう思わない 回答率%
1	あなたは、児童生徒理解のためにコミュニケーションを図っている。(対：児童生徒)	86.2	13.8	0.0	0.0	83.3	16.7	0.0	0.0
2	あなたは、児童生徒の規範意識をはぐくむ指導に取り組んでいる。	71.4	28.6	0.0	0.0	83.3	16.7	0.0	0.0
3	あなたは、生き方教育（キャリア教育・進路指導など）を児童生徒の実態に応じて行っている。	39.3	53.6	3.6	3.6	47.1	52.9	0.0	0.0
4	あなたは、問題行動（いじめ、不登校等）の早期発見・早期対応ができています。	39.3	57.1	3.6	0.0	52.8	47.2	0.0	0.0
5	あなたの学校は、職員間で生徒指導上の課題を共有した対応が行われている。	65.6	31.3	3.1	0.0	80.6	19.4	0.0	0.0
6	あなたの学校は、児童生徒の健全育成のために、学校・保護者・地域及び関係機関との連携が図られている。	71.9	25.0	3.1	0.0	86.1	13.9	0.0	0.0
7	あなたは、「明るく元気な竜の子15箇条」を意識して、生活指導に取り組んでいる。	72.4	24.1	3.4	0.0	69.4	30.6	0.0	0.0

生徒指導についての達成状況についても、全体的に高い値を示しているといえる。特に「児童理解のためにコミュニケーションを図っている」という設問においては、非常に高い値を示しており、本校の教職員が、子供たちに寄り添い、深い児童理解の上で教育活動を行おうとする意欲をよく表しているといえる。その成果は子供たちや保護者の意識にも表れており、学校に「相談できる先生がいる」という設問に対しても、非常によい結果が表れている。

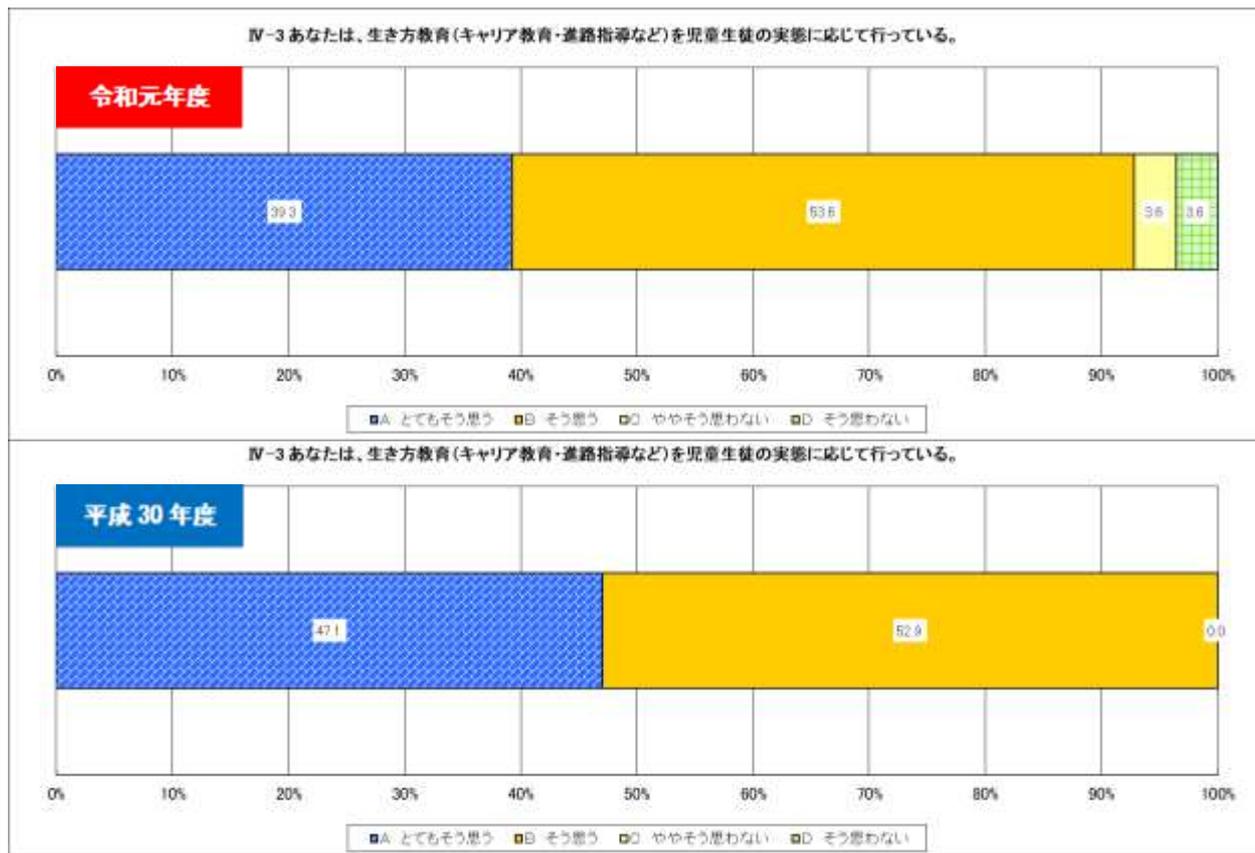


また、「明るく元気な竜の子 15 箇条」「児童の規範意識を育む指導」についての設問においても高い意識を持って取り組んでいる様子が見えてくる。どちらも学習指導上の基盤となるものであり、規律ある生活習慣や学習習慣の構築が、確かな学力の育成には欠かせないものである。そのような意識は子供たちや保護者にも伝わっており、それぞれにより高い数値が表れている。これは本校のよき伝統であり、今後も継続していきたい。

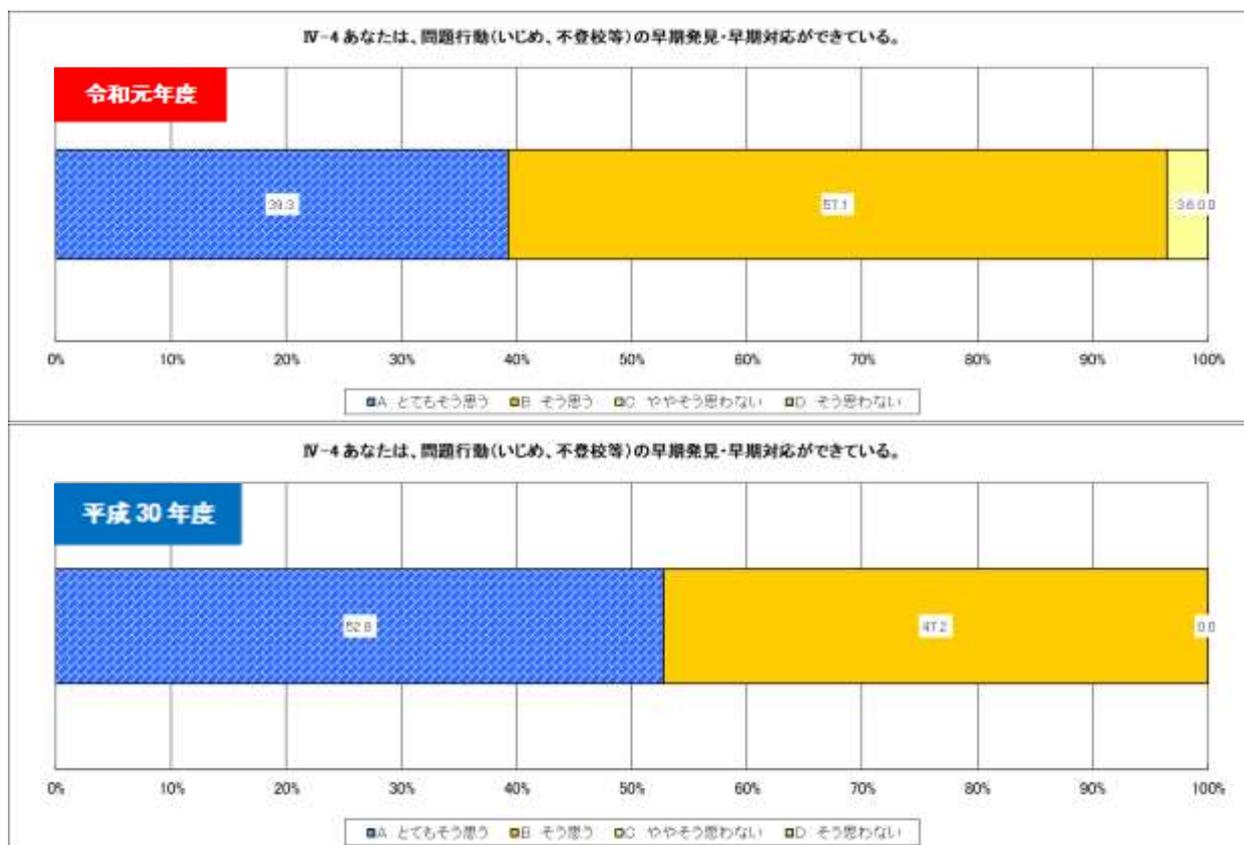


一方「生き方教育」についての設問や「問題行動」についての設問に対する数値が比較的低く表れている。キャリア教育等については特定の教科がなく、効果的に学習活動

に取り入れていかなければ取り組むことができないものであることが原因であろう。



また、問題行動の早期発見・早期対応については、教職員にとってははっきりとした成果や結果が得られづらい内容でもあり、自信をもって「A: とてもそう思う」と回答しづらいものであると考えられる。しかしながら、問題行動についてはやはり早期発見・早期対応が重要であるため、全教職員が注意深く取り組んでいかなければならない。



## (2) 改善策

- ① 「生き方教育」は、各教科や総合的な学習の時間、特別活動など、学校教育全体を通して行うものである。様々な機会を捉えて指導していく意識を全教職員が持つことが重要となる。学年主任を中心として各学年で確認したり、校内研などを通じて研修を行ったりして、「生き方教育」に対する教職員の意識を高めていく。
- ② 子供たちの問題行動については、教職員や保護者等による早期発見と早期対応が何より重要である。できるだけ素早い対応ができるよう、日頃からの学級経営の充実を図ったり、児童・保護者とのコミュニケーションを深めたりしていく。また、問題行動に対する組織的な対応ができるよう、生徒指導主任を中心にした校内委員会や職員会議を通しての、全教職員の共通理解を図っていく。

## V 地域との連携について

### (1) 達成状況

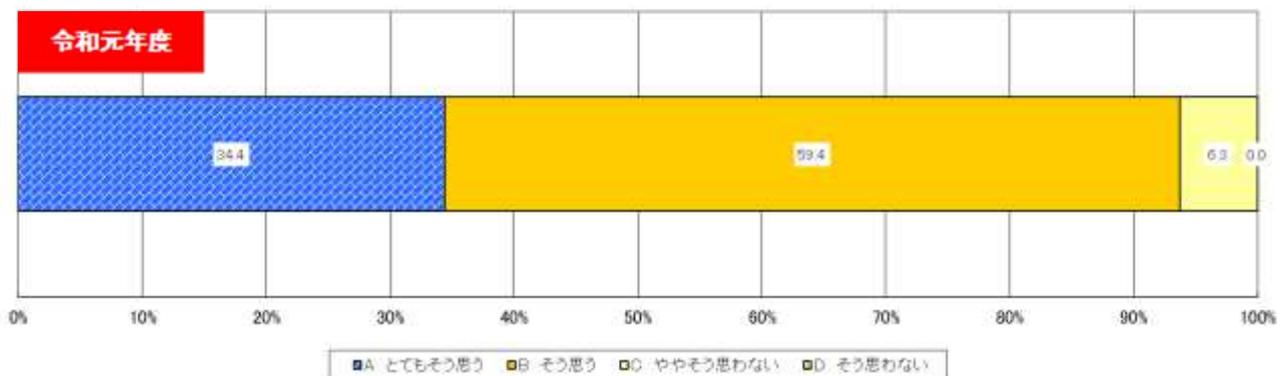
番号	V 地域との連携について	令和元年度				平成30年度			
		A	B	C	D	A	B	C	D
		とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない	とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない
	質問内容	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%
1	あなたは、教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っている。	40.0	53.3	6.7	0.0	40.0	56.0	4.0	0.0
2	あなたは、保護者や地域の願いに応えるため、学校に対する要望等を聞くなどの機会を設け、情報収集を行っている。	34.4	59.4	6.3	0.0	50.0	46.2	3.8	0.0
3	あなたの学校は、学校の教育活動について、たよりやホームページを通して保護者や地域に広報している。	85.7	14.3	0.0	0.0	94.6	5.4	0.0	0.0
4	あなたは、PTA活動に主体的に参加している。	40.6	56.3	3.1	0.0	47.1	50.0	0.0	2.9
5	保護者は、PTA活動に協力的である。	62.9	37.1	0.0	0.0	59.5	40.5	0.0	0.0
6	地域・保護者は、児童生徒の安全確保に努めている。	77.1	22.9	0.0	0.0	70.3	29.7	0.0	0.0
7	保護者は、学習指導や生活指導に協力的である。	48.6	51.4	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0
8	あなたの学校は、学校評議員制度や学校関係者評価委員会の話し合いの結果が学校教育に生かされている。	68.6	28.6	2.9	0.0	72.2	27.8	0.0	0.0
9	あなたの学校では、協力者会議を定期的開催し、学校教育への理解と地域教育の向上に努めている。	77.1	22.9	0.0	0.0	82.4	17.6	0.0	0.0

概ね良好である。本校は「協力者会議」「PTA 竜小まつり」「早朝作業・運動会の観覧席決め」「教育講演会」等、PTAや学校関係者による行事が盛んであり、それぞれの連携がしっかりとれていると言える。また、保護者や地域住民による、毎日の子供たちの登下校の見守り等、様々な場面で協力を得ている。そのような取組が本校の教育活動を支え

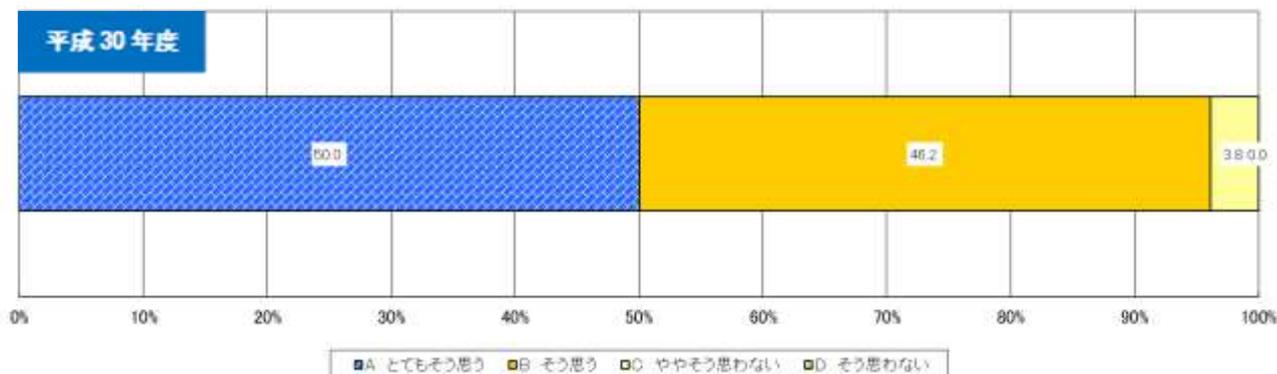
ていると言えよう。

一方、保護者や地域からの情報収集や地域の人材や施設の活用に課題がみられた。

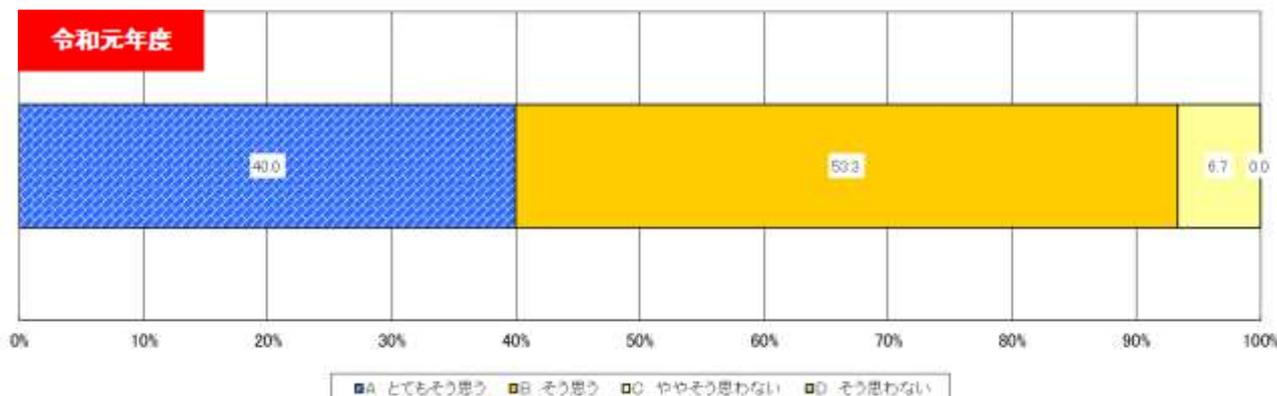
V-2 あなたは、保護者や地域の願いに応えるため、学校に対する要望等を聞くなどの機会を設け、情報収集を行っている。



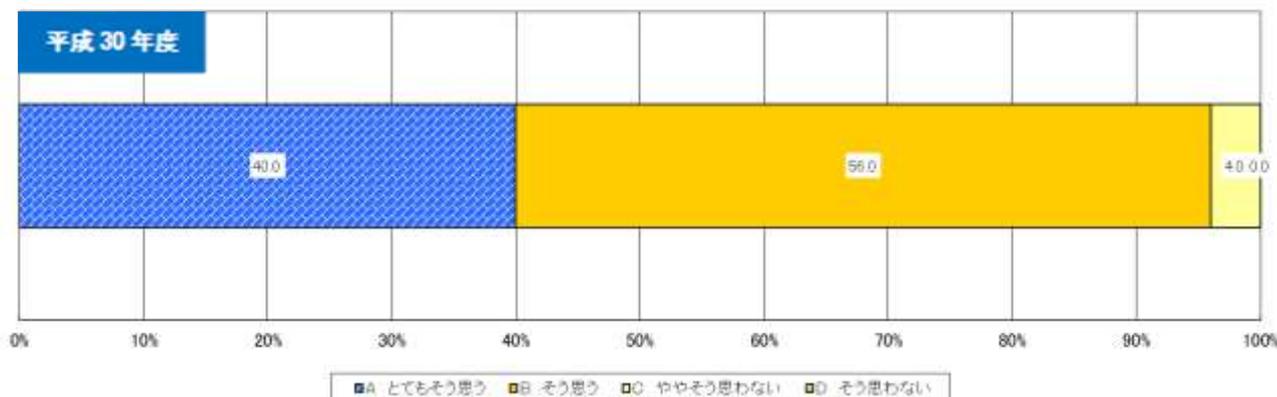
V-2 あなたは、保護者や地域の願いに応えるため、学校に対する要望等を聞くなどの機会を設け、情報収集を行っている。



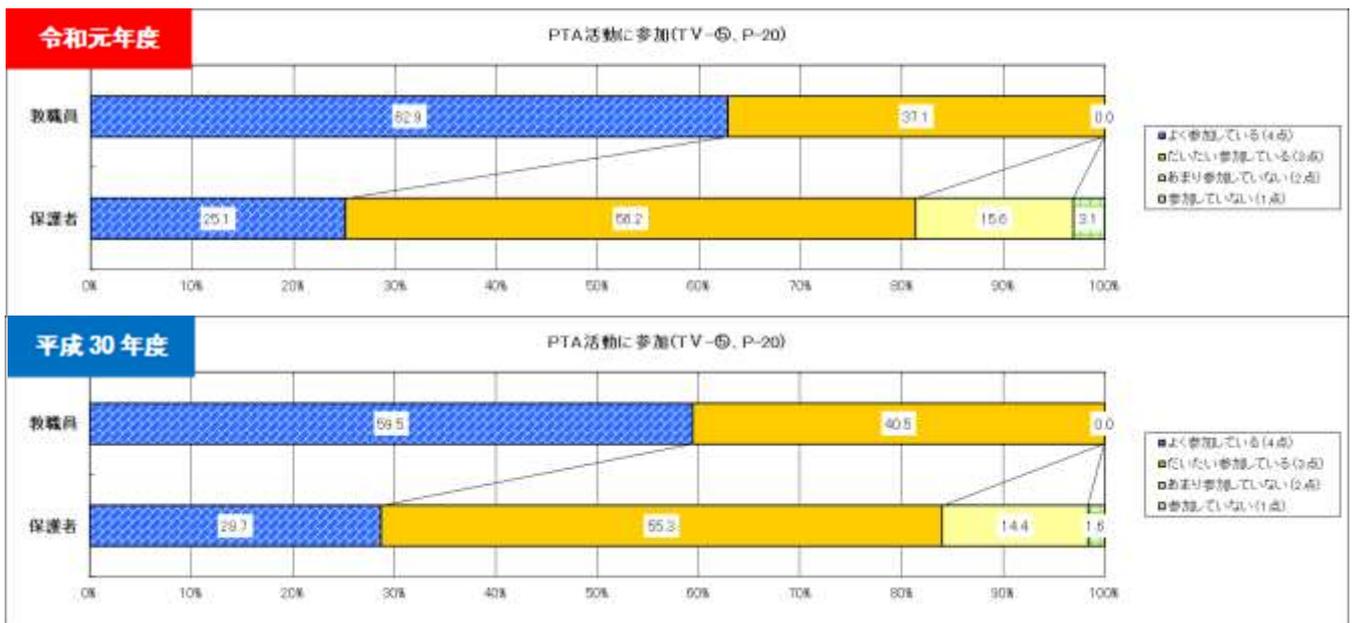
V-1 あなたは、教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っている。



V-1 あなたは、教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っている。



また、保護者の PTA 活動への参加の意識については、昨年度と比べて多少の減少がみられるが、肯定の解答が 80%を越えており、なお高い水準を保っていると言える。



## (2) 改善策

- ① 保護者や地域からの情報収集については、家庭訪問、個別懇談、学級懇談会等を通して、各教職員が意識して取り組むようにしていく。また、夏休みのラジオ体操への教職員の参加なども、地域の情報収集の一環として捉えていく。学校としてはこれまでのように協力者会議等の機会を活用し、地域からの情報収集に努める。
- ② 社会科・道徳科等の各教科や総合的な学習の時間、特別活動等の指導において、保護者・地域と連携し、協働できる教育活動を洗い出し、地域の人材や施設を十分に活用できるように進める。

## VI 学校の特色に関して

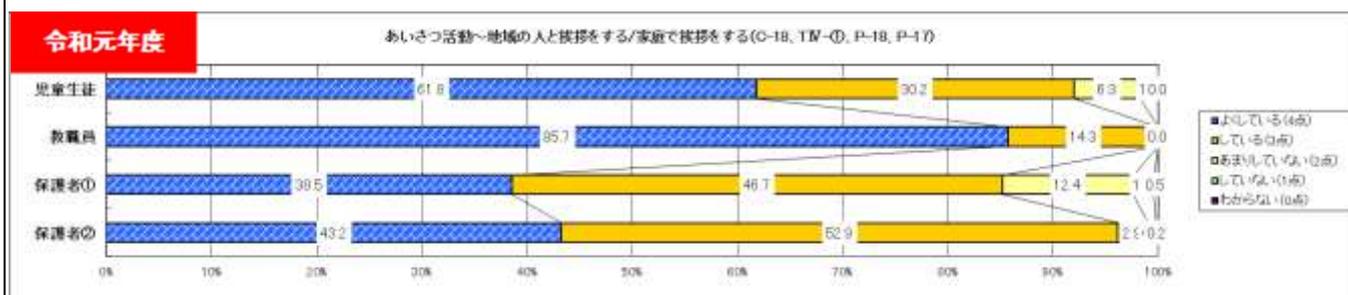
### (1) 達成状況

番号	VI 学校の特色 質問内容	令和元年度				平成30年度			
		A	B	C	D	A	B	C	D
		とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない	とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない
		回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%
1	あなたの学校は、児童生徒が進んで挨拶をするよう、指導に努めている。	85.7	14.3	0.0	0.0	86.5	13.5	0.0	0.0
2	あなたの学校は、授業参観日や学校開放日を保護者や地域に伝え、定期的を実施している。	88.6	11.4	0.0	0.0	91.9	8.1	0.0	0.0
3	児童が積極的に「読書活動」に取り組むよう、指導に努めている。	79.4	20.6	0.0	0.0	73.0	24.3	0.0	2.7
4	「児童会行事」に、児童が進んで取り組むよう、指導に努めている。	88.2	11.8	0.0	0.0	83.8	13.5	0.0	2.7
5	短縮日課など、時間割を工夫する中で、授業時数の確保に努めている。	82.9	17.1	0.0	0.0	78.4	18.9	0.0	2.7
6	教育機器（ICT等を含む）を、積極的に取り入れた活動を行っている。	77.1	22.9	0.0	0.0	73.0	27.0	0.0	0.0

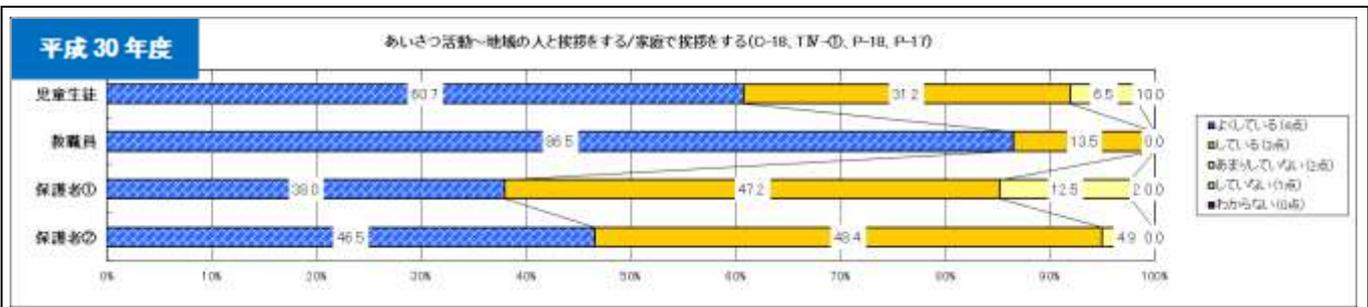
どの設問においても、肯定的評価が非常に高い数値を示した。教職員が入れ替わり、担任学年が変わっても、組織的な対応により、本校の特色を生かす指導ができていることを表している。特に授業参観日や学校開放日の取組や児童会行事への取組などは「A:とてもそう思う」の評価が90%に迫る数値であり、教職員の意識の高さがうかがえる。

また、1月28日（火）に行われた公開授業研究会に向け、全教職員でICT機器の使用方法や活用方法を研究したこともあり、教育機器（ICT等を含む）の積極的活用の数値が高い伸びを示している。

あいさつの状況については下のグラフのようになっており、昨年度とほぼ同じような結果が出ている。児童会が毎学期「あいさつリーダー」を任命し、毎朝児童玄関であいさつを呼びかけている。また、生徒指導主任が中心となり、登下校中に地域住民にあいさつをするよう指導している。これからも教職員全体で高い意識を持って指導していきたい。



保護者①は、地域の人とのあいさつ、保護者②は、家庭でのあいさつの状況を表しています。



保護者①は、地域の人とのあいさつ、保護者②は、家庭でのあいさつの状況を表しています。

## (2) 改善策

- 学校の特色については、学校長の指導の下、全教職員で共通確認をしながら進めて来ている。来年度以降も「チームドラゴン」として、特色ある、地域のリーディングスクールとしての役割を果たしていけるよう、全教職員一丸となって取り組んで行く。

## 3 まとめ（成果と課題）

I 学校教育目標・学校経営について	
成 果	課 題
○学校教育目標をもとにした学校経営	○学校運営や学級経営のPDCAサイクルの構築 ○福利厚生や健康管理についての管理の充実
II 学校運営について	
成 果	課 題
○他の教職員との相互理解や信頼関係を深めての教育活動	○「危機管理マニュアル」への十分な理解
III 学習指導について	
成 果	課 題
○基礎・基本の定着を図る授業の充実 ○規律ある学級、学年、学校集団づくり ○分かりやすい授業の構築	○授業における評価規準と評価方法の明確化 ○宿題・家庭学習への指導の充実 ○国際理解を高める指導
IV 生徒指導	
成 果	課 題
○児童理解のためのコミュニケーション ○規範意識を育む指導 ○「学校には相談できる先生がいる」などの保護者・児童からの信頼感	○生き方教育（キャリア教育など）の充実 ○問題行動の早期発見・早期対応
V 地域との連携	
成 果	課 題
○PTA・学校関係者との連携 ○保護者のPTA活動への参加の意識	○保護者・地域からの情報収集の充実 ○地域の教育力を生かす指導
VI 学校の特色	
成 果	課 題
○授業参観日や学校開放日への取組 ○児童会行事への積極的な取組 ○教育機器（ICTを含む）の積極的活用の高い伸び ○あいさつ活動の充実	